

みやぎ街道交流会NEWS



2013年3月15日発行

寄稿

「陸前浜街道の藩境を越える」

会員 笠原 弘邦

平成二十四年の夏、猛暑のお盆八月十六日に陸前浜街道の内、釜石市にある石塚峠越えの旧街道を歩いてきた。左の略図を見てお分かりの通り、そこは藩政時代に仙台藩と盛岡藩の藩境を画する峠越えの道である。

街道の登り口は、釜石市の南の唐丹(とうたん)湾に面した唐丹町本郷という所であるが、唐丹町はこの度の大地震で十五メートルを超える大津波により大被害を被った。だが町の中心部はかなり高い所にあった為、壊滅は免れた。小・中学校や公民館もある町並みはかなり古く、歴史を感じられる町である。

さて浜街道であるが、北に向かって真っ直ぐ登る登山道入口には、「史跡浜街道石塚峠七里塚登り口」と刻まれた立派な標柱と案内板(写真①)があり、左に一軒家がある。登り始めはやや傾斜が急だが、木立にかこまれた気持ちの良い山道である(写真②)。

歩きはじめて十分も経っただろうか。一對の

七里塚が現れた。西側の塚は崩れ気味ではあるが、東側の塚はしっかりと原型を留めていた(写真③)。

七里塚とは、一里塚が一里二里二十六町で造られているのに対し、小道(一里二六町)の七里四十二町で造られたものをいう。「この塚の大きさは、直径七メートル高さ約三メートルである。構築されたのは、『南部領貞亨絵図』に描かれているので、貞享年間(一六八四〜一七〇七)以前であろうと推測されている。

登り始めてから四十分程の所で、道が変則的な十字路になっていた。西方に向かう左折の道がはつきりしているのだが、目指す石塚峠は北方であるので、かなり荒れている沢道である北へ向かう悪路を行くことにした。これは正解であった。右折する東方へ向かっている道は、荒れて崩れかけている北方へ行く道を迂回するため、後に造られた道であった。その道はやがて合流する。

したたり落ちる大汗をかき、おおよそ一時間半ばかり登ったところで、急に前面が開け青空が見えてきた。そこが石塚峠であった(写真④)。そこには伊達藩と南部藩との藩境を印す印杭(いんこう)が、道の両側にあるはずなの

で、西側の斜面を登ってあつちこち探したが見当たらず、その印杭が建っていたと思われる穴跡を見いだした(写真⑤)。案内板の説明によると、西側の印杭のみが、朽ちかけて残っていたが唯一現存する貴重なものなので、釜石郷土資料室に保管されているとのことである。

たつぷりと峠での感慨にひたつてから、一気に平田側への下りにかかった。道跡ははつきりしており、迷うような所は無かったが、下るにつれて道はうすくなり、麓に近づくにつれ緩い草地の斜面を下る感じであった。江戸時代、仙台から釜石方面に旅した旅人達は、どんな気持ちでここを下ったのだろうかと思いを馳せるのであった。きつと「ああ、もう少しで釜石の湊だなあ」と思ったに違いない。

下りの所要時間はおおよそ三十分程である。街道は当時、多分尾根伝いに平田村へと続く(次頁に続く)



【略図】



写真①



写真②



写真③



写真③Ⅱ



〒980-0014
仙台市青葉区本町1-13-32 オートビル2F
TEL: 022-722-3380 FAX: 022-722-3381
Mail to : miyagi-kaidou@auone.jp

(前頁からつづく)

ていたのではないかとと思うが、現在、その道は消えており、最後は直接国道四五号線に出るようになっていいる。平地に出る箇所は砂防ダムへの堤防に突き当たり、こちら側から登るには道が分かりづらいと思う。国道四十五号線に面する所は、かなり広い平田総合運動公園になっていて、このたびの大震災被災者の仮設住宅が建っていた。

ここで休息を取った後、車で十分程の平田の町へ行った。そこには江戸時代御番所があり、復元された建物があったのだが、大津波で全て持って行かれたと地元の人に教えられた。そこには土台石だけが残されており、釜石湾奥にある平田漁港の集落は、すっかり壊滅状態であった。

以上で石塚峠越えの浜街道歩きの記事は終わりですが、来る時に通った志津川の町や気仙沼市、大船渡市それに平田の町並みと、このたびの大震災による被災地の様子はあまりに無残で、何とも見るものつらく、心痛むものであった。しかし、目的の旧街道歩きは、幸いにも旧街道が山越えのため、大津波の被害から免れられたのは、不幸中の幸いであったなと思ったのであった。



春のイベント情報 第1弾!!

「仙台城下の芭蕉道」探訪の募集開始間近!

第13回芭蕉の道を辿り、往時を偲ぶ集い～仙台城下五月七日編～

第1部 探訪コース 主催:おくの細道松島海道 共催:遊び心探求の会 後援:みやぎ街道交流会ほか

- 開催日 平成25年4月21日(日) ● 集合 JR 仙石線榴ヶ岡駅前 ホテルサンプラザ前 9時45分
- 募集人員 先着50名限定 (3月21日から募集開始) ● 参加費 2,800円(昼食、テキスト、保険、講座資料)
- 行程 サンプラザ～榴ヶ岡天満宮～道仁寺～国分寺薬師堂～元茶畑跡～北目町(昼食:喜楽久亭)～北目町街道基点～画工加右衛門宅跡～東一番丁～橋本善右衛門宅跡(三越西館)14時45分着
- 申込み 氏名・年齢(保険加入のため)・住所・電話番号を記載して Mail: basho@malkyo.com FAX022-354-2524
参加費事前振込要(郵貯) 18100-35139541 おくの細道松島海道 京野英一

第2部 講座コース

- 開催日時 平成25年4月21日(日) 15時～16時 ● 募集人員 先着70名限定 ● 資料代 500円
- 会場 仙台三越(旧141ビル)エルパーク仙台 5F セミナーホール (講座のみ参加者)
- 演題 『芭蕉翁と仙台城下』 講師:「仙台文学」主宰 後藤 文二氏

「関山街道フォーラム」関係イベント予告!

「関山街道フォーラム」では、つぎのイベントを計画中です。詳細決定次第ご案内致します。

- 関山街道フォーラム「仙山線の魅力を語る会」 4月14日(日)13時～ 【会場】岩松旅館(作並)
- 「関山街道フォーラム」講演会 4月20日(土)13時30分～ 【会場】広瀬市民センター
～街道・仙山線・広瀬川がつなぐ絆 新たな仙山交流に向けて～
①講話「仙山交流の楽しさ面白さ」 宮城大学事業構想学部教授 宮原育子氏 ②活動事例紹介(内容検討中)
- 街道探訪会「関山隧道&嶺渡り」 4月29日(月) 【集合】岩松旅館(作並) 8時30分

【事務局より】

“暑さも寒さも彼岸まで”と言います、厳しい寒さの冬ももう終わりです。春のイベント情報第1弾も入ってきましたが、春の街道シーズンがもうそこまで来ています。是非、爽やかな新緑の街道を歩いていただきたいと思ひます。

一昨年12月発行の第18号の『五輪峠を越える』に続いて、会員の笠原さんの寄稿を頂きました。前回の街道歩きでは、風雨と時間切れのため叶わなかった念願の仙台・盛岡藩境の峠「石塚峠」の探訪記です。このような会員の皆様の投稿をお待ちしております。(やま)